

# OCHADAI GAZETTE

お茶の水女子大学学報 第262号 2019年11月9日

OCHADAI GAZETTE Autumn, 2019



写真：写真部

## 研究・開発の場に女性の力を

### CONTENTS

#### TOPICS

学長からのメッセージ	1-2	附属学校園からのお知らせ	7-8
女性の参画で新たなイノベーションが生まれる			
学生のアクティビティ	3-4	キャンパス点描	9-10
白珪70(なお)磨くべし			
教員紹介	5	<ul style="list-style-type: none"><li>● 学部オープンキャンパス2019を開催しました</li><li>● お茶の水女子大学と東北大学が「包括協定」を締結しました</li><li>● AO入試「新ファンボルト入試」プレゼミナールを開催しました</li><li>● 生協1Fエリアをリニューアルし、内覧会を開催しました</li></ul>	
卒業生紹介	6	<ul style="list-style-type: none"><li>● 西村 純子先生 (基幹研究院人間科学系 准教授)</li><li>● 高橋 幸恵さん (文教育学部 言語文化学科 中国語圏言語文化コース 卒業)</li></ul>	



お茶の水女子大学  
Ochanomizu University

# 学長からのメッセージ

# 研究・開発の場に女性の力を

## ～女性の参画で新たなイノベーションが生まれる～

女性の活躍が進んでいない分野の一つとして研究・開発分野が挙げられます。大学・研究機関・企業に在籍する日本の女性研究者の割合は、他の先進諸国に比べて遙かに低く、ポルトガル、イギリス、アメリカ、チリで30%以上、フランス、オランダも20%以上であるのに対して、僅か15.3%に過ぎません。特に理工系の研究者が不足していて、20年前に比べて約2倍に増加してはいるものの、現在でも理学系で14.9%、工学系では6.2%という状況です。

最近の国立大学における全学部の卒業生、修士課程修了者、博士課程修了者の女性比率は、それぞれ、約37%、27%、29%と、全体の3分の1程度になっているのですが、まだまだ研究者を目指す女性たちは多いとは言えないのが現状です。その上、女性教員の割合が僅か16%で、ロールモデルが極めて少ない状況ですから、日本の若い女性たちが自分たちの将来像を描けないのも無理がないのかも知れません。

お茶の水女子大学では女性教員の割合は51%となって居り、この値は全国立大学の3倍以上の比率に上っています。様々な分野で頑張っている女性教員と触れ合う機会が多いわけですから、本学の学生たちは、身近に多様なロールモデルが居ることで、他大学の学生たちよりも自分たちの将来像を描くことがより容易なのではないかと思っています。ただ、指導的立場にある教員（教授）比率は他の国立大学の平均の2倍以上にはなっているものの、まだ35%ですから、本学でもさらに女性たちの上位職への昇任を後押しする必要はあります。

また、お茶の水女子大学では、若い女性たちがそれぞれの夢を実現するために、大学独自の様々な支援策を用意しています。例えば、学内保育施設（現「いずみナーサリー」）は、子どもを持つ学生や若手研究者が安心して教育を受け、研究を続けられるよう、2002年に設置された施設です。当時、病院を持たない国立大学の中に厚労省の指導下にある保育施設を設置することはなかなか難しかったのですが、当時の佐藤学長と本田学長のご理解と、一緒に努力して下さった教職員や学生さん達のお蔭で、厚労省と関係を持たない国立大学で初めての学内保育施設として立ち上げることができました。学生さんがここにお子さんを預ける場合は、大学が保育料の2分の1を補助しています。その他、子育て中の女性研究者に研究補助者を配置しているだけでなく、配偶者の妊娠に伴う産前・産後の休暇や育児休暇をとり易くしています。また、妊娠中、未就学児養育中、親族の介護や看護に携わる学内の研究者には、研究補助や事務補助など一時支援の制度も整っています。さらには、育児等のために研究を中断した女性研究者のために「みがかずば研究員」制度を作り、キャリアの継続を支援しています。本学の学生さんや研究者の方々には、途中で諦めることなく、学び続け、研究を続けて、それぞれの資質・能力を十分に伸ばして頂きたいと願っています。

最近、研究・開発分野に女性たちが参画することで新たな視点が導入され、そこで生み出された成果の経済的価値が、男性だけで生み出した成果よりも高いことが報告されるようになりました。

例えば、製造企業約400社・約100万件の国内特許を「男性のみが発明者の特許」と「男女の発明者が関わっている特許」に分け、それぞれのグループの特許の経済価値の平均を比較することによって、それらの経済価値を比較した報告があります（三菱総合研究所知財分析支援サービス、日本政策投資銀行）。それによると、製造業のほぼすべての業種において、後者が高価値を示しています【図1】。特にゴム（220%）、繊維（160%）で顕著です。女性の活躍度が上がると、男性発明者のみによる特許よりも、その経済的価値が上昇し、女性の参画が経済的価値を高めることも示されて居り【図2】、女性の視点が入ることで、新しい価値が生まれることを示す良い例です。

男女の違いに配慮し、女性の視点を導入することが不可欠である工業製品の例に、シートベルトがあります。スタンフォード大学で科学史を専門としているロンダ・シービンガー教授によると、これまでのシートベルトは成人男性の体型に合わせて開発されたもので、そのために、女性には息苦しくて使いにくく、交通事故では女性が大けがを負いやすいことが分かっています。特に妊娠中の女性や乳がん患者にとっては、単に使い勝手が悪いだけでなく、事故が起こった際に赤ちゃんが死亡する例や、術後の痛みのために装着できない例が知られています。

医薬品開発においては、動物実験でオスが使われることが多いのですが、これは、メスのように月経や妊娠による体調の変化がなく、常に一定の条件でデータを収集し易いことが理由です。しかし、オスのデータだけに基づいて創られた薬剤は、男性には効果があつても、女性には効果が少ないと、逆に効き過ぎたり、副作用が出やすかったりする薬剤が開発されることもあります。こういったことに配慮しないことで、創薬のために費やした膨大な研究・開発費が無駄になることもあります。また、大腸がんや心疾患の検査などでも、男性と女性とで発症する場所や形態の違いから、これまでの男性を基準とした検査方法では、女性の大腸がんや血管狭窄の発見率が低いと言われています。研究・開発段階で、男女の違いに配慮しなかったり、女性の視点を導入しなかったりしたことで、個人的リスクの増大や社会的損失が引き起こされた例が、近年、次々と明らかにされて来ています【表1】。

社会の活力が落ちている中で、持続可能な社会を維持し、新たなイノベーションを創出するためには、研究成果の質を高めることが必要であり、そこに、これまであまり省みられてこなかった男女差への配慮と、女性の視点を積極的に取り入れることが、必須であると明らかにされて来ています。

考えられます。

男女の体や思考法の違いを意識し、女性の視点を取り入れた研究・開発や理論構築が、科学技術の進展と新たなイノベーション創出に大きく貢献できることが次々と明らかにされている現在、理工系にとどまらず、広い領域で、若い女性たちが研究・開発に参画することへの期待が年々高まっています。

課題の提起と、その課題解決に向けた具体的な行動を起こす上では、上に述べたように、理工系のみならず広い領域における研究者・技術者だけでなく、創出された研究成果を社会に広く発信し、人々のために活用する企業や、法制度から社会を変えていく政策立案者など、多様な人々や組織が積極的に参加して、国や世界の未来に向けた活動を推進することが必要です。お茶の水女子大学で学び、働く若い皆さんには、是非、研究・開発の場で力を発揮して、調和の取れた社会創りに参画して頂きたいと思っています。そして、国際社会の課題解決のために新たなイノベーションを生み出す人材として育って頂きたいと願っています。

2019年10月

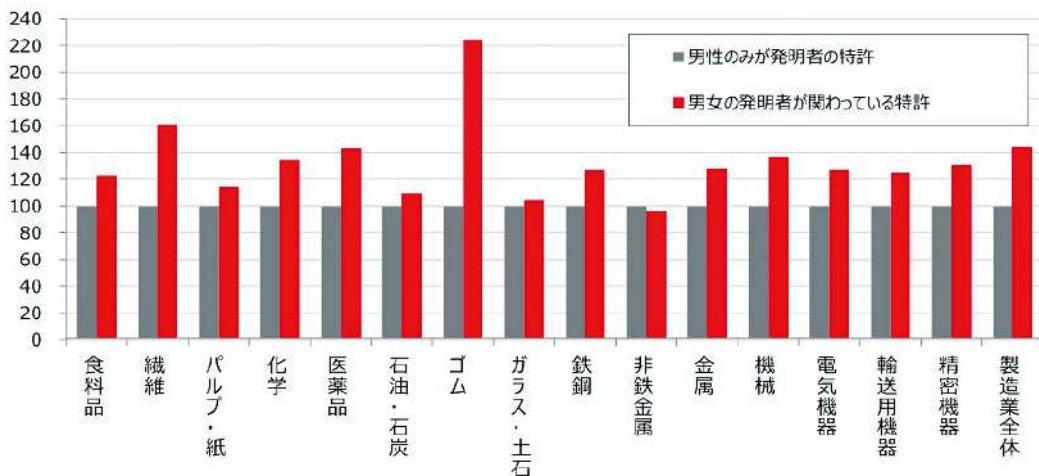
お茶の水女子大学長 室伏 きみ子

【表1】

事例	これまでの開発状況と課題	
シートベルトの設計	男性の体型を基本に開発	▶ 交通事故において女性の方が重篤な障害を受ける率が高い
薬剤の研究・開発	オスを動物実験に使用することが多い	▶ 女性には効果が低かったり副作用のある薬が開発されることがある
大腸内視鏡検査	男性の例を対象に設計	▶ 女性と男性では発生の部位と形が異なることがあり、女性の大腸がんを見落とす事例がある
血管の狭窄検査	男性の例に基づき設計	▶若い女性では血管全体に狭窄が進行する場合が多く、虚血性心疾患の前兆を見逃すことがある
骨粗しょう症の診断	女性を対象とした診断法	▶骨の変形の仕方が異なるため、骨粗しょう症と診断されない男性が存在
幹細胞移植の適合性	男女差を考慮していない	▶幹細胞に男女差があることから移植も女性同士、男性同士が望ましい
機械翻訳プログラム	男性を標準に設定	▶女性の名前でも「彼」と翻訳されることが多い

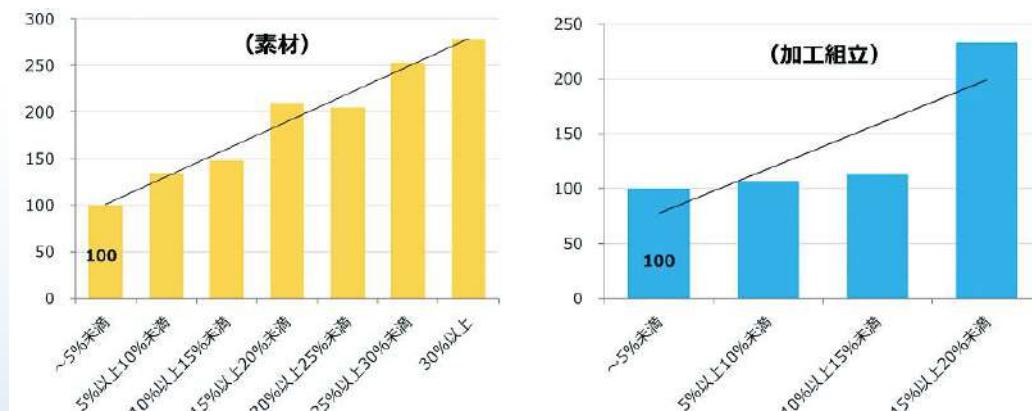
(男性のみが発明者の特許 = 100)

▶【図1】男性のみが発明者の特許と男女の発明者が関わっている特許の経済価値比較



▶【図2】女性の活躍度が上がると共に、特許の経済価値も上昇する

(特許数に占める女性発明者が関わっている特許数の割合が5%未満の企業の男性開発者のみによる特許の経済価値を100とする)



特許数に占める女性が関わっている特許の割合(女性活躍度)

※【図1・2】共に三菱総合研究所「知財分析支援サービス」によって日本政策投資銀行が作成

## 学生のアクティビティ

なみ  
白珪70祭

11月9日(土)、10日(日)に開催される  
お茶の水女子大学学園祭「徽音祭」  
徽音祭実行委員の3人にインタビューをしてきました!

## 実行委員を始めた理由は?

**中** 学園祭の実行委員に憧れがあり、大学生にならやろうと決めていました!

**遠** 大学受験のモチベーションの一つに大学のミスコン出場者の存在があったので、大学入学後はミスコンに関わりたいと思っていました。

**須** 学習発表が中心の中高の文化祭に物足りなさを感じていたのと、学生でしかできない経験をしたいという想いから始めました。

## 続けてきた理由は?

**中** 先輩や後輩との交流が楽しいからです。今では学生生活に欠かせない存在になりました。

**遠** みんなで一丸となって一つのことを取り組むことができるからです。

**須** 私は、徽音祭だけでなく実行委員の組織運営も変えたいという想いがあったからです。

## やりがいを感じる瞬間は?

**中** みんなで準備してきたものが合わって企画として成功すると、やりがいを感じます。お客様が帰り際に「楽しかった」と言ってくれたときは嬉しかったですね。

**須** 自分が力を入れて取り組んだ実行委員会の組織改革を周囲に評価してもらえたときです。改革による変化を肌で感じられるので、やりがいがありました。

**遠** ミスコン運営の中枢に関わって、企画の成功に貢献できたときです。あと、友達から「実行委員をやっている姿がかっこいい!」と言われた時は本当に嬉しかったです!

## 大変だったことは?

**遠** 就活との両立に苦労しました。ただ、大変な時は周囲が「手伝うよ!」と声をかけてくれたので、協力し合いながら進めることができました。

## 準備中の裏話

**須** 今年はよき伝統は残しつつも慣習に囚われないよう、新しいことにも積極的にチャレンジしました。

**遠** 例えば水コンでは、「お茶大生が憧れるお茶大生を決める」というコンセプトにより合うように、"知性"という選考基準を新たに設けました。

**須** あと実は、もっとお茶大生を徽音祭に巻き込みたいと思い、今年は徽音祭のテーマソングを学内で募集したんです。当日どこかで聞こえてくるかもしれない、お楽しみに!

## 来場者へひとこと

**須** 今年は、来場者の方々の参加あってこの企画も盛りだくさんなので、ぜひ学内外問わず多くの方に足を運んで頂きたいです! お待ちしています♪



## 徽音祭 70周年企画

### ①きいちやんの木

きいちやんが植えた木に、70年の歳月を経て花が咲く…!? お花型のメッセージカードにメッセージを書き貼って完成させる、来場者参加型のアート企画です。

### ②きいちやん& 【 】の主張

今年は令和元年!そして徽音祭も70周年…!ということで、新しい時代に託す自分の目標をステージ上で叫ぶ、来場者参加型の企画を用意しました。



### 徽音祭 オリジナルグッズ 紹介



毎年人気のクリアファイル。今年オリジナルのデザインは2種類あります!



テーマの由来

完全無欠の清うかな玉も  
さうに磨くべきである。  
徽音祭を通してお茶大生の個性を磨く、そんな意味を込めました。参加団体さんも含め、みんなさんが新しい発見や変わるきっかけに出会える場になればいいなど願っています。

**白珪70磨くべし**

## おすすめ企画

### お茶大王

学内予選を勝ち抜いたチーム対抗のクイズ大会。来場者参加型のクイズ大会も開催します。

### 学術企画

今年は応募数が多く、なんとお茶大の教授も初参戦します!

### スタンプラー

毎年大人気の企画。今年もやります!

第1回

## 全国学園祭 マスコット総選挙

徽音祭公式  
マスコットキャラクターのきいちやん、今年も総選挙に参加しています!  
投票は[こちら](#)▼



### 編集後記

今回のインタビューを通して、今年の徽音祭実行委員は今までのやり方に囚われず、どんどん新しい取り組みにもチャレンジしてきたことが分かりました。その分、一度行ったことがある方も、もちろん初めての方も楽しめる内容になっているのではないでしょうか! 当日が楽しみです!

文責:文教育学部人間社会学科4年 鈴木悠加



# 教員紹介



毎回、お茶の水女子大学の教員のご専門や教育観をご紹介する「教員紹介」。今回は、2018年4月に着任された基幹研究院人間科学系准教授 西村純子先生にお話を伺いました。西村先生は、大学院では人間文化創成科学研究科ジェンダー社会科学専攻生活政策学コース（博士前期課程）、ジェンダー学際研究専攻ジェンダー論領域（博士後期課程）、学部では、生活科学部人間生活学科生活社会科学講座のご所属です。

「人にはそれぞれの事情がある」ことに  
気づけることが社会学のおもしろさ

Junko Nishimura  
西村 純子

**Q1** こんにちは。どうぞよろしくお願いします。先生は2018年4月にお茶大に来られたということで、まず、これまでのご経歴を教えていただけますか？

大学院を修了後、多摩地域にある明星（めいせい）大学で初めての専任の職を得て、そこで16年間勤務しました。人文学部人間社会学科所属で、社会学を軸に教育と研究をおこなってきました。毎年ゼミをもっていましたので、気づけばたくさんの卒業生を送り出したことになります。

**Q2** 社会学がご専門ということですが、社会学といっても範囲が広いですよね。特にどのような内容をご専門とされているのですか？

専門は家族社会学です。家族社会学がどのような領域かを、ひと言でいうのは難しいですが、あえていうならば、家族に関わるさまざまな現象を、規範や制度といった社会のあり方を関連づけながら考察する学問領域です。これは家族社会学に限らず、社会学全般にいえることだと思いますが、社会学では個人の行動を、その人がどんな関係性の中で生きてきたかという観点から理解しようとします。つまり、個人がなぜある行動をとるのかということについて、その人が社会のどのような位置で、どんな人たちと生きてきたか、どんな規範の世界で生きてきたかなど、その人が生きてきた社会との関わりから考えようとします。そのように人びとの行動の背景を考えしていくことで、ある

現象の違った側面が見えてきたり、「人にはそれぞれの事情がある」ことに気づくことができるようになります。社会学のおもしろさだと思います。

**Q3** どういうきっかけで、家族社会学の研究を始めるようになったのですか？

学生のころから「日本の社会は子どもを育てながら働くことがすごく難しい社会だな」と感じていました。大学卒業が近くなり自分の進路を考えるときも、会社に入って子どもを育てながら仕事をすることが、簡単にできるというイメージを持つことができなくて、何か大変なことばかりが自分の頭に浮かびました。そうした社会に大きな疑問をもつたのが、研究を始めたきっかけです。そういった問題意識からこれまで、女性の就業とストレスの問題、子どもをもつ女性の就業キャリアなどについて研究してきました。

**Q4** これから注目される研究テーマあるいは今後取り上げていかなければいけない研究課題はどんなことですか？

家族社会学としてはたくさんあると思いますが、これまでわたしが取り組んできたことの延長線上でいうならば、母親の就業率が高まる状況の中で、子どもの育ちを親・親族、地域社会がどのように支えていけるか、ということについて考えていきたいと思っています。これまでの日本社会は、保育の充実が叫ばれながらも、子育てについては親族に多くを頼るとい

う側面が強くありました。けれども親族（実質的には、親）は「いつでも・どこでも・誰にでも」利用可能なわけではありません。親族に頼ることができるか、できないかが、親と子どもの生活機会に格差をもたらすような社会になっていくのか、それを考慮したうえでの社会的なサポートのあり方について考えてみたいと思っています。

**Q5** お茶大生についてはいかがですか？ お茶大生の特徴は何かありますか？

自分の考えを、言葉できちんと人に伝えられる人が多いなという印象があります。お茶大の中にいると普通のことのように思えるかもしれませんのが、決してそうではなく、そこはお茶大生の強みだと思います。その強みを、社会でぜひ生かしてほしいです。

**Q6** 最後に、先生からお茶大生に向けて、一言メッセージをお願いします。

どんな小さなことでもいいので、学生時代に、興味をもつてること、おもしろいと思えることを見つけて、一生懸命取り組んでみてほしいと思います。学生時代に達成できることは多くないかもしれませんのが、社会に出てから、そのこだわりが人生を豊かにしてくれたり、導いてくれたりすることがあるように思います。

文責：基幹研究院自然科学系教授  
赤松 利恵

# 卒業生紹介



Sachie Takahashi  
高橋 幸恵

NHK 出版 「きょうの健康」  
テキスト編集部 編集者

東京都出身

2003年3月 お茶の水女子大学 文教育学部  
言語文化学科 中国語圏言語文化コース 卒業  
2003年4月 NHK出版 入社

## Q1 将来の仕事を意識しながらどのような学生生活を送っていましたか。

中国の文化や人、言葉に興味があって、中国語学を専攻。北京にも短期留学に行って、楽しくながら学ばせてもらっていたと思います。

早くからマスコミ業界に興味を抱いていましたが、私が就職活動をしていた2001～2002年当時は就職氷河期と呼ばれる時代。自分の専門や得意分野をアピールできるようにならなくてはと思っていた（実際には、得意なことのアピールよりも、人間性のほうが大切だということにあとから気づいたのですが）。

## Q2 現在のお仕事に就くまでの経緯を教えてください。

NHK出版のテキストや書籍には、学生時代から親しんでいました。

2003年にNHK出版に入社し、最初の3年間は営業局にいました。書店さんや取次さんと協力して、本やテキストが売れる仕掛けをつくりしていく。やりがいや面白さを感じていましたし、社会人としての土台もこの時期に築けたと思っています。

その後、語学編集部に異動し、ラジオやテレビの中国語講座テキスト、中国語関連の単行本の編集に従事。学生時代にお世話になった先生方ともお仕事をさせていただく機会に恵まれました。取材で、カメラマンさんと一緒に北京、上海、成都、九寨溝、西安などをまわったこともあります。学生時代からの興味関心を満たす仕事ができたことは幸いでした。

現在はNHK「きょうの健康」テキストの編集部にあります。当編集部に在籍中に2度の出産を経験（今年5歳と3歳の男児がいます）しました。今は育児短時間勤務中。仕事と子育てを両立することができます。



## Q3 現在のお仕事内容を教えてください。

NHK「きょうの健康」テキスト編集部にて、編集業務をしています。業務の流れは主にざっくりと、①企画を考え、②取材に行き、③誌面の工夫をし、④印刷所とやりとりのうえ本にする、というものです。当テキストは番組の内容を掲載しているほか、テキスト独自の企画も盛りだくさん。医療情報だけではなく、例えば、簡単で栄養豊富な料理を紹介するページ、街歩きのページ、自宅でできるトレーニング、パズルやぬり絵、読者の相談に哲学者が答えるページなどがあり、編集部のメンバーで協力しながら毎月1冊のテキストを作り上げています。

私が担当している連載も数本あり、どれも思い入れがありますが、数年前に担当していた、中国医学に基づく「食養生」の連載は印象深いもののひとつ。季節や環境・体調に合わせた食事の大切さを学び、自分の生活に応用した結果、産後の体調不良が改善しました！

最新の医療情報に加え、自身や家族の健康・生活にも直接役に立つ内容に触れることができる環境です。読者の方々からの反応も楽しみで、やりがいのある職場です。

## Q4 在学生へのアドバイス・メッセージをお願いします。

私が担当している連載「哲学者からの手紙」のなかで、哲学者の岸見一郎先生は次のことをおっしゃっています。“人間には三つの「こと」があります。「するべきこと」と「したいこと」と「できること」の三つです。このうちできることは「できること」だけです。”（NHK「きょうの健康」2019年5月号）

希望の職に就くために、「〇〇するべきだ」と思い、焦ることもあるでしょうし、「〇〇をしたい」と望むこともあると思いますが、できるのは「できること」だけ。これは、できることしかしないという意味ではなくて、「今、できること」に目を向けるということです。

なりたい自分を思い浮かべ、憧れの環境を具体的にイメージすることはとても大切なことです。しかし考えたからといって、すぐに希望が叶うわけではありません。理想の状態に向けて「今、できること」に目を向け、コツコツと継続していく粘り強さやしなやかさが必要だと思っています。

NHK出版の採用時期は、私が就活をしていた当時、遅いほうでした。当社の内定を得るまでに、私はほとんどの会社で内定がもらえず、自分の存在価値すら見失っていたことを記憶しています。苦しい思いをしましたが、自分にできることを諦めずやり続けました。また、私の古い友人は、何事にも前向きな側面を見つける人です。自分ではあまり納得していなかった会社へ入ることになりましたが、明確なビジョンをもって、転職でキャリアアップしていました。

自身が入社してからのことを振り返れば、20代の頃は夢中で仕事をしていました。結婚や出産を経て、したくてもできないことは増えましたが、一方で、それまでとは異なる視点を得ることができ、視野が広がりました。仕事と子育ての日々は試行錯誤の繰り返しだけですが、振り返れば、できることにつつ一つ向き合ってきた「点」の経験が、「線」となってつながっているのを感じます。

卒業、転職、結婚、出産など、人生には環境が大きく変わるタイミングがあります。どのステージでも、焦りや不安はとりあえず脇に置き、「今、できること」に丁寧に、しなやかな気持ちで向き合えれば、人生大抵のことはなんとかなる、と思います。

文責：基幹研究院人文科学系准教授

小松 祐子

### わたしのオフタイム

昼休みに読書をするのが至福の時間。また、夫に子どもたちを任せて行く美容院では、「あー幸せ～」と思わずつぶやいていますね。

# 附属学校園からの お知らせ

## ～附属高等学校便り～

### SGHからSSHへ！



「女性の力をもっと世界に～目指せ未来のグローバル・リーダー～」をテーマとして、2014(平成26年)にスーパーグローバルハイスクール(SGH)の指定を受け、

2019年3月まで教育課程の開発を行なってまいりました。試行錯誤の日々が続きましたが、都心に立地するという地の利を生かし、探究活動の授業に学外の諸機関から講師をお招きしたり、生徒がフィールドワークとして訪問したりするなど、大学・研究所、官公庁、企業、NGOなど外部のリソースを積極的に活用することを特色とするプログラムを開発いたしました。最終年度となつた2018年には探究型の学習の進め方をまとめた冊子を作成・配布し、研究成果の発信に努めています。

SGH指定期間の後半には、研究開発を進めると同時に指定終了後の本校の方向性について検討を行い、SGHの蓄積を生かしつつ、先端科学で社会を変革するイノベーターや科学的視点を持ってイノベーションを支える市民を育成することを目的として、スーパーサイエンスハイスクール(SSH)に応募することにいたしました。

2019年4月にSSHの指定を受け、今年度の新入生から「女性の力をもっと世界に～協働的イノベーターとイノ

ベーションを支える市民の育成～」をテーマとするSSHの教育課程が始まっています。5月に行われた1年生の諏訪湖周辺の水質検査を行ったり、八島湿原の自然観察、寒天・味噌・蜂蜜など食に関する施設や蚕糸博物館を見学したりするなど、SSH学校設定科目である「課題研究基礎」、「生活の科学」と連動させた活動を取り入れました。



8月に神戸で開催されたSSHの生徒研究発表会では、2年生の村田響子さんが「惑星状星雲中心星の表面温度測定」と題したポスター発表を行い、ポスター賞をいたしました。



### 校舎の大規模改修 が完了！

附属高等学校の校舎は1935(昭和10年)3月に竣工し、今年で築84年となります。伝統ある校舎を歴代の生徒たちが大切に使ってまいりましたが、近年は廊下の撓み・軋み、腰壁の痛みなどが目立つようになっておりました。2008年に耐震補強工事が行われ軀体の安全性は確保されました。老朽化は否めず、今年度、大規模改修が行われることとなりました。6月から9月の4ヶ月間は校舎をほぼ空にして工事が行われ、この間は共通講義棟1号館を中心に大学の施設をお借りしての授業となりました。

今回の改修は木造のままであった1階の床の補強が目的であり、外観・内装共に大きな変更ではなく、むしろ可能な範囲で創建当時の姿に近づけることを目指しました。昭和天皇



## 附属学校園での出来事 (2019年7月~9月)

### 【いずみナーサリー】

#### 7月

- 七夕
- 避難訓練 (地震・火災)
- いずみナーサリーの日
- 水遊び・プール遊び
- 寒天遊び

#### 8月

- 避難訓練 (不審火対応)
- 夏野菜収穫・調理
- 水遊び・プール遊び

### 【附属幼稚園】

#### 7月

- 七夕
- 幼稚園説明会
- 誕生会
- 終業式
- 5歳児有志 飼育物・畠の世話
- 夜の園庭でのセミの羽化を観察する会

#### 8月

- ライフ×アート展参加
- 同窓会「ちぐさ会」園庭草刈り  
ボランティア

#### 9月

- 始業式
- 後期教育実習開始
- むしひょうほん博物館
- クラス懇談会
- 避難訓練
- PTA主催 講演会
- 飛鳥山公園遠足 (4歳児)

### 【附属小学校】

#### 7月

- 保護者会
- 情報モラル講習会 (5・6年、保護者)
- 芝生補植 (5・6年、保護者ボランティア)
- 防犯教室
- 終業式

#### 8月

- 登校日 (4・5・6年)
- 林間学校 (4・5・6年)

#### 9月

- 始業式
- 不審者対応訓練
- 保護者会
- 開校141周年記念日
- 栄養教育実習
- 通学班別会

- すいかわり
- ライフ×アート展参加

#### 9月

- 引き取り訓練
- いずみナーサリーの日
- 水遊び・プール遊び

### 【附属中学校】

#### 7月

- 1学期期末テスト (全学年)
- 第1回学力テスト (3年)
- 保護会、情報講習会、お茶の子バザー
- 1学期終業式

#### 8月

- 2学期始業式
- 第II期教育実習

#### 9月

- 郊外園 (2年) 大根の種まき、  
サツマイモの雑草取り
- 第2回学力テスト (3年)
- 自主研究発表会 (保護者参観日)
- 生徒祭

### 【附属高校】

#### 7月

- SNSについての研修 (1年)
- 学力テスト (2年)
- 保護者会 (1・2年)
- お茶大英語サマープログラム  
(1・2年生2名)
- 1学期終業式

#### 8月

- 東工大サマーチャレンジ  
(3年生8名)
- イオン アジアユースリーダーズ in  
ハノイ (2年生4名)
- 2学期始業式
- 3年学力テスト
- 筑波大学附属高等学校との合同  
キャリア講演会 (1年)
- 進路講演会 (2年)

#### 9月

- 第II期教育実習
- 輝鏡祭 (文化祭)
- 第2回学校説明会
- 改修後の校舎への引越し
- ノーベル賞受賞者を囲むフォーラム  
(1~3年生15名)

## 附属学校園からのお知らせ

の即位を記念して作られた「大禮記念文庫」の書棚を設置  
当時の「書庫」の位置に納めて高校の歴史的資料の保管場所とするなど、高等学校に残されていく創建以来の什器類も修繕して活用しています。

一方、理科や家庭科、情報科の実習室には、SSHの新しい授業実践に適した施設・設備が備えられています。その他の特別教室も探究型の学習に適した空間となるよう改修を行ないました。また、図書室も木製の書架に統一され、快適な学びの場に生まれ変わっています。

こうした改修および2度の引越しには、教育後援会、同窓会である作楽会をはじめ、卒業生、在校生保護者の皆様から多大なご支援を賜りました。また、大学の執行部、関係部局、工事関係の皆様にも大変お世話になりました。この場をお借りして、改修工事にご協力くださった全ての皆様にお礼申し上げます。今後も伝統ある校舎を大切にしつつ、新しい時代の教育実践を積み重ねて参りたいと思います。

# キャンパス点描

## 学部オープンキャンパス2019を開催しました

2019年7月13日(土)～15日(月・祝)の3日間、学部オープンキャンパスを開催しました。雨で足元が悪い中、6,700名を超える受験生や保護者の方々にご参加いただきました。

オープンキャンパスでは、各学科・講座・コースの説明会場が来場者の集合場所となり、説明会前には、多くの来場者で構内が賑わいました。それぞれの説明会場では、学長のビデオメッセージに始まり、お茶の水女子大学の特徴的な教育プログラムである「文理融合リベラルアーツ教育」や「複数プログラム選択履修制度」、多岐にわたるグローバル教育、本学独自の奨学金、学生寮、多様な入試制度など、大学の教育の特色について説明がなされ、その後、各学部・学科・講座・コースの説明、模擬授業や在学生・教員による個別相談、研究室ツアーなど工夫を凝らしたプログラムが実施されました。新たな取り組みとして、AO入試(新フンボルト入試)説明会にて、AO入試合格者による座談会を開催しました。在学生の話に、参加者は熱心に



模擬授業(食物栄養学科)

耳を傾けていました。また、今年3月にオープンした国際交流留学生プラザにも、多くの来場者が訪れていました。

昨年から開催している、事前申込者による学長への質問コーナーでは、参加者からお茶大で学ぶ意義、女性の社会進出に関する問題などについて質問があり、学長が自身の経験も交えて丁寧に回答していました。

また、各種相談・質問コーナー、附属図書館、歴史資料館、お茶大の学園祭〔徽音祭〕情報コーナー、大学生協(食堂体験、グッズ販売)にも、連日多くの方にお越しいただきました。

来年度も引き続きオープンキャンパスを実施いたします。開催時期が決まりましたら、大学ホームページでお知らせいたします。皆様のお越しをお待ちしております。



学科説明会

## お茶の水女子大学と東北大学が 「包括協定」を締結しました

お茶の水女子大学と東北大学は、7月19日(金)、AI・数理・データリテラシー教育、グローバル女性リーダー育成、ダイバーシティの推進等、お互いの強みをもって協力体制を構築することを目的に、クロスマーチントメントを活用した研究力強化、研究拠点形成、研究成果の社会実装、協働人材育成などを内容とした包括連携協定を締結しました。

1913年に日本で初めて帝国大学として東北大学が女子学生3名を受け入れた際、2名はお茶の水女子大学の前身である女子高等師範学校の卒業生でした。その1人である黒田チカ氏は、天然色素の研究に従事し、日本初の女性理学士、日本で2番目の女性理学博士となり、東京女子高等師範学校教授、お茶の水女子大学教授として教鞭をとりました。

今般、この縁を契機に両大学間で連携協力協定を締結し、教育、研究、学生交流、産学連携、地域連携への貢献及び両大学が必要と認める事項を連携事項として進めてまいります。具体的には、まずはクロスマーチントメントによる研究者交流として、東北大学からはお茶の水女子大学の工学・情報科学系教員ニーズに応じて同分野の教員を受け入れ、お茶の水女子大学からは東北大学のダイバーシティ推進のための教員を派遣いたします。

また、本年6月に文理融合AI/IoTを駆使した文理融合型の教育・研究拠点の充実と、女性のアクセシビリティを意識した工学の構築及びその社会実装に向けた共同開発、事業化に連携して取り組むこととしております。

締結式では、本学の室伏学長からは、AI、IoT社会の女性リーダー育成に向けて、東北大学の大野英男総長からは、ダイバーシティの推進、ジェンダーバランスの向上に向けて、お互いの大学の強みを生かした連携強化を図つていきたいとの発言がありました。



# AO入試「新フンボルト入試」プレゼミナールを開催しました

2019年9月28日(土)に新フンボルト入試の一次選考に当たるプレゼミナールを実施し、受験生219名を含む454名の高校生が参加してくれました。新フンボルト入試の導入4年目にして、受講生、受験生ともに過去最高の参加者数です。新入試制度の志願状況の推移としては希有なことです。

このプレゼミナールは、受講者をAO入試受験生だけに限定するのではなく、広く高校2・3年生にも開放して行う点に大きな特徴のひとつがあります。また昨年度までは2日にわたって開催してきましたが、今年度よりメニューを凝縮し、土曜日1日で完結させるかたちで実施しました。

文系分野から6つ、理系分野は7つ、計13の多彩なセミナーを開講し、担当教員がそれぞれ熱のこもった授業を行って、学問の世界をライブで体験してもらいました。また受験生以外の高校2・3年生を対象とした図書館

情報検索演習、理学部生物学科大学院生による研究ポスター発表・自主研究課題相談会も従来通り開催し、これらのプログラムにも多くの高校生が参加してくれました。

従来の入試では、大学が受験生を一方的に選ぶだけのもの、受験生にとっては合否がすべて、という性格が強かったと思います。それに対して、この新型AO入試は、(誤解を怖れずに言えば)「合否にかかわらず」何かを得られる入試、高校生に大学での学びとはどういうものであるかを垣間見てもらい、その上でぜひお茶大で学びたいと強く思ってもらえる(お茶大を「選んでもらう」)入試にしたいと考えています。来年も、さらに多くの意欲的な高校生がこの新型入試にチャレンジしてくれることを願っています。



全体説明会の様子



セミナー(理系)の様子

# 生協1Fエリアをリニューアルし、内覧会を開催しました



生協1Fエリアの改修を行い9月30日に内覧会が開催されました。

「Refresh・Link」をコンセプトにして学生や教職員が気分転換でき癒されるような空間にしました。また、「人と人」、「人とのもの」など、多くのつながりが築けるお店を目標にしています。

改修は60周年を迎えるお茶の水女子大学消費生活協同組合の寄付で行いました。

設計はお茶の水女子大学非常勤講師でもある鍋野友哉先生のアトリエを中心に、元岡研究室との連携により学生参加を意識して進められました。

今回の改修ポイントは大きく3つになります。1つ目は軽食販売を行っていたリモネを多目的ホールとし、つながりが生まれる空間となりました。2つ目は購買店内にコの字型の総合カウンターを配置し、ピーク時でも旅行や運転免許、スクール、書籍の注文などが利用しやすくなりました。3つ目はリモネの厨房を購買店内に移設し、手づくりのお弁当やお惣菜が販売できるようになりました。

また生協60周年及び改修を機に、多目的ホールに「…noma(ノマ:みんなの間)」、店舗に「…noco(ノコ:みんなのCOOP)」と愛称をつけました。

内覧会前には室伏きみ子学長が元岡先生と学生の案内で見学されました。内覧会には大学関係者及び生協関係者約30名が参加し、三浦副学長、新名生協理事長から挨拶があり、元岡研究室の大河内さんから改修の説明がありました。その後、三浦副学長、新名生協理事長、生協学生委員長平井さんによるテープカットが行われ、内覧に移り閉会となりました。

今後も大学生活が豊かになるよう利用者の声を大切に、より良い福利厚生を目指します。



テープカットの様子

多目的ホールとなった…noco



写真：写真部

お茶の水女子大学学報 第 262 号

▽発行日：2019 年 11 月 9 日

▽発行：国立大学法人お茶の水女子大学  
東京都文京区大塚 2-1-1 (〒112-8610)

ご意見・ご感想はこちらまで

企画戦略課広報企画担当

電話：03-5978-5105

FAX：03-5978-5545

E-mail：info@cc.ocha.ac.jp

URL：http://www.ocha.ac.jp/

本誌、お茶の水女子大学学報「GAZETTE」は、  
本学ホームページにも掲載していますので、どうぞご覧ください。